

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000417		
法人名	社会福祉法人すばる		
事業所名	グループホームひだまり(ユニットA)		
所在地	江別市大麻北町608番地の3		
自己評価作成日	平成23年8月11日	評価結果市町村受理日	平成23年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 入居されている方の個々の状況に配慮しながら、地域の方にとっては知り合いの家、家族にとっては実家のように思える場所として、来訪しやすい雰囲気づくりに努めている。 * 年齢を重ねるとともに社会参加が難しくなっている為、外出行事や多種のボランティアの導入を通して社会との接点を保てるように努めている。
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171000417&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年9月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所には、共用空間の居間が2ヶ所あり、居室もフローリングや畳の部屋があり家庭的な雰囲気になるような工夫が随所にみられる。食事時や利用者がくつろいでいる時には笑顔で笑い声もあがり、職員との会話も弾んでいる。管理者は、「このホームが利用者も家族も共に実家に来た様な感じてあって欲しい」との思いから、温かな家庭の雰囲気になるよう努めている。職員間のコミュニケーションも良好である。事業所の近隣には、同一法人の特別養護老人ホーム、老人保健施設、クリニック、有料老人ホームがあり、売店や喫茶などを利用したり、クリニックとは連携を取りながら、利用者が適切な診療を受けられるよう努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は毎日のミーティング等で理念を共有すると共に運営方針や具体的目標を確認し合い、日々の業務に取り組んでいる。	事業所独自の理念を掲げ、管理者、職員は毎日のミーティングで理念の共有を図り、真摯にケアの実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	住み慣れた地域での安心した暮らしを支える為、地域の理美容室や商店を利用すると共に、運営推進会議等で地域の情報を提供して頂き、祭りに参加する等、交流に努めている。	職員は利用者と一緒に、日常的に地域の商店での買い物や理・美容院に出かけている。運営推進会議を通して地域情報を得て、行事や祭りに参加し地域との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での問い合わせや施設見学时に認知症や福祉制度の説明等に努めている。 市内グループホーム事業所と共同で市民向けの認知症講座を毎年開催している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1度地域包括支援センター職員、地域住民、家族、グループホーム職員等参加のもと開催され記録している。運営や行事内容、ボランティア活動や評価結果の報告がなされ、意見交換された内容は改善等に反映させている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催している。会議では、事業所の運営状況の報告をし、意見交換を行い、利用者の生活向上の改善等に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と相談や情報交換を行い、市との連携を密に行っている。運営推進会議録の報告等で事業所の実情やケアの取り組み等を報告し、助言を受けている	市の担当職員とは日頃から情報交換し、連絡を密にしている。また、運営推進会議の報告や事業所の取り組みについての報告も行い、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関の施錠は行わず、外周りの状況が把握できる防犯カメラや内玄関入り口の小さなベルやセンサーにて利用者の動きに配慮しながら安全で自由なケアに取り組んでいる。	毎月勉強会を行い、身体拘束の無い日常ケアに取り組んでいる。法人内には「自立支援抑制廃止委員会」があり事業所の職員も参加している。日中、事業所の玄関は施錠せず、防犯カメラや玄関入口のセンサーなどで利用者の出入りを察知し、安全で自由な生活の確保に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連する研修会に参加し、その内容を勉強会等で他職員に伝達している。また同時に認知症の特性なども学び、職員個々の業務でのストレスが軽減出来るよう話合等している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連する研修会に参加し、その内容を勉強会等で他職員に伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前訪問時に契約書を持参し説明等を行っている。即日締結はせず、内容をよく確認し、理解や納得をしてから記名捺印をして、入居時に持参してもらうようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や家族参加の行事の他、日常的にも家族と意見交換が出来るように配慮している。苦情窓口機能の明示もしており、家族の意見が運営に反映するように行っている。	職員は、家族参加の行事や面会時には積極的に家族と意見交換ができるよう配慮し、日常的に話し合うことを心がけている。事業所の運営規定に苦情窓口機能を明示し、意見箱も設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談や月1回の全体会議、毎日のミーティング時に意見交換を行い、都度検討し改善等を行っている。	代表者、管理者は、毎月行う全体会議やミーティングで出された意見は検討を重ね、事業所の運営に反映されるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、職員と面談し評価を行っている。そこで出された疑問や要望等は、内部で検討するほか、必要等に応じて法人総務等に伝え改善を求めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の各種委員会研修に可能な限り参加できるように配慮している。外部研修についても参加できるように努めている。勉強会やミーティング時に研修報告を行い内容の伝達にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	江別市内の同業者が集まる会が月1回定期的に開かれており、法人会議室の開放や議事録の作成等、積極的に協力している。職員や利用者の交流会にも必ず参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前訪問等で、本人・家族や関係機関から状況等を聞き、職員間で対応を検討してから受け入れをしている。そこから得た情報等を糸口に信頼関係を深めていくよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上。 入所直後は特に密に本人の様子を家族に伝えたり、家族の話の話を聞いたりして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上。 ボランティアによる趣味活動への参加を促す等に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の話を傾聴したり行動を支援したりしながら、その陰に隠された真意を汲み取り共感し合えるよう心掛けています。一緒に出来る家事等には必ず誘うようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に訪問でき、訪問時には居心地よく過ごせるような雰囲気づくりに努めている。 本人の近況や家族への思いを伝え、家族の絆が深まるように配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は利用者個々の思いや意向を本人・家族を通して十分把握し柔軟に対応している。	職員は、利用者の利用開始以前からの交友関係や馴染みの場所を大切に、関係が途切れないよう配慮を心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間や居室で会話等が楽しめるよう、また誤解や妄想による衝突を避ける為、職員が都度状況を把握し、必要に応じて介入する等の配慮をしている。 引きこもりがち利用者にも参加しやすい場面を設定し、声かけ等を行い交流が図られるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族や関係機関からの問い合わせ等には丁寧に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者個々の思いや意向を本人・家族を通して十分把握している。把握困難な場合は関係者間で情報交換し本人の視点にたって検討している。	職員は、利用者一人ひとりの言葉や行動から、思いや意向を把握し、ミーティング等で情報交換しながら、利用者本位に検討を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前訪問等で、本人・家族や関係機関から情報を収集し、それを糸口にして更に理解を深めていくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援に取り組むためにも、折に触れ、本人の現状や出来ること、したいことを知るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見要望を取り入れ、ケアマネージャーを中心にして職員全員で意見交換を行い、個々の心身状況、生活能力を把握し考慮したうえで介護計画を作成している。	職員は、利用者の担当を決めており、ケアマネージャーを中心に職員全体で意見交換をし、家族の意向も取り入れて、利用者の身体状況や生活能力に即した介護計画を作成している。状況に変化のあった時には、その都度検討を重ねている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌(日勤・夜勤)、個別記録、連絡ノート等を活用し情報の共有に努め、カンファレンスや毎日のミーティング等の時に検討する等している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人本体や隣接する医療法人の有する機能を活用するほか、各種ボランティア等の協力を得ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅時代に通っていた美容室や商店の利用、なじみだった場所への外出等を家族の同意や協力を得ながら継続している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理は法人クリニックの医師や看護師、グループホーム看護師により適切に行われている。利用者希望のかかりつけ医については、通院支援等を行い常に適切な医療が受けられるように配慮している。	隣接している同一法人のクリニックと連携を取りながら、利用者が適切な受診を受けられるよう努めている。また、希望に沿った通院介助も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常等を見つけたときは都度、当事業所の看護師に報告し確認する。状況に応じて医師や家族に連絡し、適切な受診等が受けられるように努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、隣接する医療法人の医師や当事業所の看護師が情報提供を必ず書面で行う、介護の情報も書面で届けている。入院中も職員が、都度様子を見に出掛けている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできるだけ早期に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については家族や関係者と話合っている。医師、看護師、職員との連携が密に行われているが、設備面で重介護者への不安があり、特養や療養型に移動する例が多い。	事業所では、看取り指針書を作成しており、重度化した場合や終末期のあり方については、その都度、家族や関係者と話し合って支援するよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接する医療機関の協力を得て、事業所の看護師が中心となり、毎月の勉強会などで対応方法を学んでいる。しかし定期的な訓練実施には至っていない。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防協力のもと夜間も想定して避難訓練を行っており、緊急時の連絡体制の確認もなされている。また、近隣の住民の方に運営推進会議にて災害時の協力を依頼している。	年2回、消防署の協力で夜間想定を含めた避難訓練を行っている。敷地内にある同一法人施設との合同訓練や連携体制も構築している。備蓄はないが、缶詰やその他の食品は日頃から多めにストックするようにしている。緊急時の連絡網も作成している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応や言動は個々の状況に応じながらも尊厳を損なわないように配慮している。個人情報保護法に沿った利用者への対応を図り書類管理等には細心の注意を払っている。	職員は、利用者一人ひとりの人格やプライドに配慮し、言葉遣いや対応に気を配っている。記録簿などの管理も徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が混乱しないように配慮しながら、選択できる機会を多く持つよう努めている。意思決定を待つ姿勢の大切さも、勉強会・ミーティング等で話されている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	言動や状況の中から一人ひとりの意向をくみとり、体調等に配慮しながら個別性・柔軟性のある対応が出来るように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が納得して、気温や場に応じた身だしなみ等が出来るよう対応に配慮している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け、片付けを職員と共に、献立は日頃の会話や気づきから好みや旬のものを取り入れ随時変更している。食事時は何名かの職員が共に食卓を囲み楽しみの場となるよう努めている。	事業所では、食事の準備や盛り付け等は利用者の力量と希望に応じて職員と一緒に、食事が楽しみなものになるよう工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は各チェック表で毎日確認している。嗜好等に応じた献立の個別変更、とろみ剤や食器の形の工夫で本人の力で安全に摂取できるように工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの口腔ケアの状態を確認し、必要に応じて本人の自尊心が傷つかないように配慮しながら仕上げ磨きをするように心がけている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じてチェック表を使用する。ミーティング等で一人ひとりの方の排泄の状態を話し合い確認し、排泄用品の検討を行い出来るだけ本人の力を生かせるように努めている。	排泄チェック表に記録している。便のコントロールは看護師が管理しているが、職員は清拭や衛生面に配慮し、利用者のプライドを大切に、そっと声をかけよう心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	事業所の看護師が中心となり、個々に応じた飲食物の工夫、運動、服薬等による排便調整に取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ホームとしての大まかな決まりはあるが、本人の希望やペースに合わせて行っている。個々の希望するシャンプー等の使用や、職員と会話を楽しめる時間になるように努めている。	入浴は週3回としているが、希望に応じて調整をし、心地よく入浴を楽しめるよう支援している。足浴だけを行う時もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体・活動の状況、生活習慣を把握するように努め、適度に休息したり、安心して気持ちよく眠れるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事業所の看護師が都度、口頭や連絡ノート、カンファレンス資料等で周知に努めている。服薬マニュアルは、折にふれ全員で確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事(掃除・調理下ごしらえ)、趣味活動(手芸・民謡・カラオケ)、軽作業(畑仕事・草むしり・鉢物の世話・布切り・縫物)等を個々の状況に応じて行えるように準備し働きかけている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春から秋にかけて職員と共に散歩や買い物に出掛け、冬期は隣接の特養施設の売店や喫茶コーナーに出掛ける等家族等と相談し、一人ひとりの希望・状況に合った外出支援が行われている。	職員と共に散歩や近隣商店街への買い物など、日常的に出かけている。隣接の特別養護老人ホームの売店や喫茶なども楽しみ、利用者の個々の状況に応じて外出支援を工夫している。また、事業所では、戸外にでかける外出行事を年間行事に組み込んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物外出の他、本人の能力に合わせた状態のお金を用意し、出来るだけお金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望や了承を得て支援している。携帯電話を持参されている方もいる。母の日等遠方の家族から送り物があつた際は、状況に合わせ出来るだけ電話で声を確認できるように努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の窓からは四季折々の景色を見渡す事が出来る。共有空間は広く利用者の安全を考慮した造りになっており、温室度換気等も適切に保たれるように配慮している。建物両サイドのフリースペースも利用者の状況に合わせ、談笑の場・テレビ観賞の場・観葉植物の配置等居心地良く過ごせるように工夫し使用している。	ユニット内には、共有空間の居間が2ヶ所にあり、窓からは広々とした戸外の風景や、隣接グラウンドの大勢の子供達の遊ぶ姿を眺めることができる。利用者は、自由にゆったりと思いいに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思いいに過ごせるような居場所の工夫をしている	主居間の他に副居間が2か所あり、ソファー等を用意し談笑したり、読書したり、休んだり出来るように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具が持ち込まれ、家族写真や仏壇等が一人ひとりの好み等に合わせ設置されている。収納スペースが十分あり、清掃も行き届き清潔が保持されており居心地よく過ごせるように工夫している。	居室にはベットのほかに押入れがあり、ロッカーを置いており、畳やフローリングの部屋がある。利用者は使い慣れたものを持ち込み、写真や絵を飾り、その人らしく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況に合わせ名札や使い慣れた家具等で自室が判りやすいように工夫している。また、家具等で動線を確保し出来るだけ安全に自立した生活が送れるように工夫している。		